

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL・0256-33-0007

E-mail・sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

二〇一一年に厳修された、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要。それに向けて立ち上げられた、教区御遠忌委員会に参加させて頂いたことが、今の私にとって三條別院との関わりをもつ大きな出来事であった。

組の推薦で委員会の一員となった最初の頃の私は、会議に出席してはいたものの、ただ黙って座っているだけだった。議事の進行についていけず、このままではいけないと思うときもあれば、今すぐにでも逃げたいと思うときもあった。そんな葛藤を繰り返しながらも会議に出席していたある日、御遠忌通信の編集を任されることになってしまった。今思えば、今まで何度も逃げたいと思っていた私に、勉強するチャンスを与えてくれたのかもしれない。

編集の仕事を通じて、職員の方々、他の委員の方々とお話する機会も増え、たくさんの方の御指導をいただいた。住職になって八年が経過したが、もしあの時、組の推薦を受けていなかったら、いろんな方々と出会える御縁をいただけたかどうかだろうし、一人の人間として成長することもなかっただろう。

私は今、報恩講実行委員会と教区御遠忌実行委員会の一員として活動している。別院の事業に関わることで、また新たな出会いの御縁をいただけることに感謝している。二〇一五年の教区御遠忌法要に向けて各部会において準備が着々と進められているが、毎年の報恩講に向けての取り組みも、教区御遠忌法要に繋がる重要な役割を担っている。二つの委員会に属することで、今まで以上に法要への取り組みに責任を持たなければならぬと感じている。

この先、幾度となく法要に向けた会議が開かれるだろう。辛いこともあるだろうが、他の委員の方々との出会いに感謝し、今よりも少しぐらいは成長できるよう、二年後の法要に向けて準備を進めていけたらと思う。

(第二十四組榮行寺 大溪文祥氏)

〇次回の「三條別院に想う」は、

松永寛亮氏

(佐渡組 因領寺住職)

より「執筆いただきます」

■春彼岸会・東日本大震災犠牲者追弔法会厳修

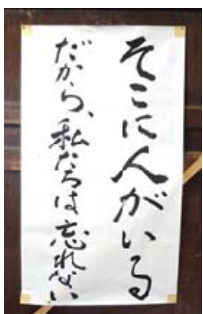
三月二十一日(木)から二十三日(土)にかけて三條別院春彼岸会が厳修されました。

二十一日の逮夜法要では倉井光弥氏(第十一組 養泉寺)にご自身が生活支援員として活動していた時の出会いと人間の生きる闇について、二十二日の日中法要(永代経総経)後と、おときを挟んでの逮夜法要後には、田中静麿氏(第十八組 西照寺)にさまざま条件の中で生きている我々の存在の真実についてのご法話をいただきました。



【法話講師の倉井氏(上) 田中氏(下)】

二十三日には日中法要と兼修して東日本大震災犠牲者追弔法要が勤められ、震災から二年が経過しての被災地の現状と、そこから生まれる私達が抱える課題を当派現地復興支援センター主任の清谷真澄氏からご法話頂きました。当日正午からは、おしるこの振舞い、チャリティーバザー、手作りの小物販売が行われ、**救援金募金**



額は三万七百万円、バザーの売り上げは五万四千四百円となり、沢山の協力力をいただきました。救済金、バザー売上げともに、東日本大震災三教区災害救援金として納めました。ありがとうございます。ありがとうございました。

また、多くの方々からバザーの物品・記録写真をご提供いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

文末に、東日本大震災犠牲者追弔法要の表白文を掲載させていただきます。この震災から見えてきた課題を私達一人ひとりが丁寧に問うていければと思います。



【チャリティーバザー・おしるこの振る舞いも好評だった】

東日本大震災犠牲者追弔法会表白

本日、恭しく、尊前を荘厳し、謹んで三條別院「東日本大震災犠牲者追弔法要」をお勤め致します。

二〇一一年三月十一日、突然の大地震とその後おそった大津波は、想像を遙かに超える災禍をもたらし、原子力発電所の爆発事故をも引き起こしました。二年



【清谷氏も被災地岩手県出身】

を経た今日、一万五千八百八十二名の尊い生命が失われ、未だ二千六百六十八名の行方不明者がおられます（二〇一三年三月十一日現在）。沢山の方々々が傷つき悲しむ、未曾有の大災害となりました。このことは、まさに私たちが生きる世は科学の想定と我々の思いを超えて無常であるということを教示しています。

殊に、原子力発電所の事故によりもたらされた放射能汚染は、私たちと私たちのつくりあげてきた「いのちよりも他のものが優先された社会」の結果であり、そのことにより、現在と未来に大きな不安と苦悩を抱え生きざるを得ない人（いのち）が深く傷つけられ続けています。

この度三回忌法要にあたり、「東日本大震災」という大きな悲しみを風化させることなく心に刻み、無常の世を生きる苦悩と悲しみの問題と、亡くなられた多くの方々への願いを、自らの問題として丁寧に聞き続け、人として生きることに意味を自覚し、共に、お念仏の大道を歩まんとす。

二〇一三年三月二十三日 三條別院輪番 釈 幸雄 敬つて申す

三條別院公開講座のご案内

「地域に開かれた別院」という課題の一環として、「現代の問題」をテーマに公開講座を開催いたします。

今回は、日本の心理療法である森田療法を通して仏教を研究されている北西憲二氏に、心の問題と仏教思想・親鸞思想について、お話をいただきます。心の問題を持つ人、支える人、関わる人など、どなたでも是非ご来院ください。

◇日時 五月十九日（日）

午後二時三十分～四時三十分

◇場所 三條別院本堂

◇講師 北西憲二氏（森田療法研究所所長）
◇講題 「現代人の悩みと森田療法」
―仏教思想との関連から―

◇参加費 無料

※崇敬区内寺院にはポスターを一部送付させていただきますので、有縁の方々に周知お願い申し上げます。

御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

【四月二十八日（日）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

東護典子氏（第十九組 改観寺）

◇今後の講師一覧

- 五月 渡邊智龍氏（第十八組 恩長寺）
- 六月 美野彰恵氏（第二十二組 本悟寺）

■ 定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首の命日です。また、蓮如上人も御文中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通) 三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。皆様、お気軽にお越しください。



【3月は地獄・極楽のはなし】

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後二時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 旧御堂

◇講師

二月〜四月 堀川 秀道 氏(第十六組 浄専寺)
五月〜七月 佐々木 祐玄 氏(第十五組 光善寺)

■ 別院声明教室のご案内

別院声明教室を毎月一回開催しております。門徒の朝夕のお勤め、得度考査の内容の講習です。現在、念仏・和讃を稽古中です。参加者を継続して募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

◇開催日 二〇一三年 四月 十八日(木)

五月二十三日(木)

六月 十三日(木)

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館(三条別院内)

◇講習内容 正信偈 草四句目下

念仏讃 洵三

和讃 弥陀成仏のこのかたは

次第六首

◇講師 回向 願以此功德

◇持ち物 島津 崇之氏(第十八組 満行寺)

『真宗大谷派勤行集』または

『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

■ 同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後、シーツクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

■ 三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談させていただきます。

さい。

■ 三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

◇◇ 編集後記 ◇◇

「行けない」のか「行かない」のか。この自力・他力の問題は、「鎮西・九品・長楽寺」のように分裂した法然門下から、能行・所行を問う江戸教学、そして現代まで続く難問だ。だが、取りあえず行ってみたら、行けたのである。だから、自分は「行かない」でいたのではないかと思う。

三月十九日、本寺小路へ繰り出し、翌朝、M氏とI氏と一緒に、松島まで行った。不謹慎だが、松島はあった。見てきたから、確かである。津波で枯れた松もあるようだが、地形的に被害は比較的少なかったようだ。

帰路、二本松の真行寺に寄った。これまでは「行かなかつたが」、やっと「行った」。

ただ、出かけてしまったので、自坊の彼岸会には「行かなかつた」。許してください。(S)